

中村

「中村会」創立60周年記念号

発行 中村会（愛知県立中村高等学校同窓会）

明日待つわれら



平成26年度同窓会懇親会 集合写真

大志を語れ



現役高校生

心の
泉の
夢

会長挨拶

会長 宮崎 晃吉



2014年5月11日の総会で中村会第10代目の会長に就任しました、1970年昭和45年3月卒業、15回生の宮崎晃吉でございます。

約10年ほど前の学校創立50周年の頃から同窓会にご縁が続き、第7代萩原義昭会長の時に副会長をさせていただきます。以来、学校評議員を務めています。

2015年（平成27年）は同窓会創立60周年の年になります。2005年8月20日に千種駅西のメルパルクにおいて、約200名の参加を得て中村会創立50周年記念行事が盛大に挙行され10年経ちました。

毎年、同窓会長が卒業式の前日の同窓会入会式で同窓会の紹介と案内をしますが、それだけでは在校生の皆さんには同窓会の活動を理解して頂くのは難しいと思いました。

そこで7月頃よりまずオーストラリアのメントンへの交換留学生の出発をセントレアへ見送りに行き、他には野球部の試合の応援の為、瑞穂球場へ向向き清涼飲料水を贈呈し、又、演劇部に対しては半田文化会館や栄の芸術フェスティバルへ応援に行きました。

演劇部は26年12月24日に岐阜県瑞穂市の総合センターで中部地区大会に出場しましたが、会場への交通費を英気の泉から贈呈しました。

又、今後は生徒会長さんと同窓会長との対談もどこかでできるとよいと思っています。

中村高校も中村会も70周年、100周年に向けて発展していかねばなりません。この10年間、英気の泉基金の創設、中村未来塾の開催、学校、PTA、同窓会の三位一体の関係が円滑に機能しています。

英気の泉の学び舎で3年間を過ごされた皆さんが、心のふるさと中村高校同窓会（中村会）にお集まり頂くことを、切に希望します。

この記念誌はここ10年間の歩みを冊子にしたものですが、発行に当たって尽力されました役員各位に厚く感謝申し上げます。

明日の同窓生のために

校長 小菅 順一



同窓会の皆様には、本校の教育活動をさまざまな場面で支えてくださり、厚くお礼申し上げます。

昨年4月、半田東高校から転任しましたが、西三河・知多地区で6年間勤務し、久しぶりに名古屋に戻りました。過去には庄内川近くの2校に合わせて16年間勤務しており、本校への赴任にも大きな縁を感じております。

さて、卒業生に講師をお願いしている「中村未来塾」、アメリカンサマーキャンプ、メントン校との交流事業などは、同窓会の多大なご支援のおかげで成り立っています。これらの活動を通じて、在校生は同窓会を身近に感じ、「明日の同窓生」という思いを強くしています。とりわけ、宮崎晃吉会長には、野球部、演劇部などの大会で、直接在校生を激励していただきました。

現在、在校生は60年を超える「中村」の伝統を感じながら、勉学に、部活動に、学校行事に真摯に取り組んでいます。未来の同窓生が、「中村」の伝統を継承し、発展させる人材として育つよう、同窓会の皆様には、温かく、なおかつ厳しく本校を見守ってくださるようお願い申し上げます。

学校の様子は、「校長室だより」としてHPに随時アップしています。一度ご覧ください。



英気の泉 心のふるさと

平成26年度 PTA 会長 平野 展由



中村会60周年、誠にありがとうございます。

第一期生の方達が中村高校を卒業されてから60年の歳月が流れた訳で、大変な歴史と伝統を感じます。

その間には「英気の泉基金」を立ち上げていただき、現役生に対する様々なご支援をいただきありがとうございました。

アメリカンサマーキャンプなどの国際交流事業や、プラスバンド部立ち上げの際の楽器購入、教養講座「中村未来塾」の開催に際しての御支援はその一端であり、深く感謝申し上げます。

校歌にも「英気の泉 心のふるさと」と歌われておりますが、同窓生の皆様方にとりまして、中村高校は今も心のふるさとであり続けているものと推察致します。

その中村高校に対する誇りと愛校心を次の世代に引き継いでいくためにも、将来を担う中村校生が学校に対してさらなる誇りを持てる環境を整えていくことが大切だと考えております。

本校は学校創立時に用地取得が難航したこともあり敷地が手狭なため、残念ながら現在の正門玄関周りは教職員の方達の駐車スペースも充分でなく、雑然とした状況となっております。

風格ある伝統校としての佇まいを整えるためにも、新たな駐車用地の取得なども含め、同窓生の皆様方から様々なご意見をお寄せいただき、今後とも息の長いご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ここ10年間の同窓生に中村高校の思い出を書いてもらいました。

2003 平成15年

「生徒会活動の思い出」

(第51回生) 佐橋 嶺

中村高校創立60周年おめでとうございます。私は平成15(2003)年から3年間、中村高校に在学していた佐橋嶺と申します。当時を思い返すと、私が入学する直前に創立50周年を迎えましたので、あれから10年が経過したと思うと時間が経つのは早いと思います。

今回、「生徒会活動の思い出」というテーマで執筆をさせて頂きましたが、正直に言いますと当時のことをきちんと伝えることができているか不安です。忘れていた部分も多いと思いますが、卒業文集やクラスの文集を見ながら当時の事を思い出して執筆させて頂きました。

高校生活の思い出は生徒会とサッカー部です。生徒会活動をやっていた時間は、楽しくて、嬉しくて、どきどきした時間でした。思い出深いのは2年生の頃です。授業が終わったら生徒会室に行き、いつものメンバーと色々な話をし、会議や行事の準備をする時間がとても楽しかったです。よく一緒にいたのは同学年で言うと梅田倫子さん、西澤藍さん、新美郁圭さん、柿本淳花さん、一つ学年が下の渡邊雅子さん、須藤香織さん、寺道詩乃さんでした。顧問は高堂先生と日下部先生でした。中でも体育祭、文化祭の準備は大変だった思い出があります。体育祭ではパフォーマンスやボードのこと、文化祭ではクラスや部活の出し物、有志発表と、それらに関する印刷・製本関係…。体育祭では、パフォーマンスの練習時間が足りないのので夜にみんなどこかに集まって練習する「闇練」が横行していたのでそれを先生方と一緒に取締ったりした記憶があります。文化祭の出し物で3年生の出し物は劇というのが慣習であった気がします。1,2年生は出し物が決まらなくて休憩所っているのが年々多くなっていた気がします。ばたばたしている内に体育祭も文化祭も終わっていきました。

改めて振り返ってもいい思い出です。過去に戻れるならこの頃だと思う程です。

当時所属していたサッカー部の友人であり、現在中村高校に勤務している原田幸介さんと話す機会がありましたが、昔と様子が変わっていることを聞いて驚くことが多いです。

高校生は子どもでも大人でもない中途半端な時期で、やろうと思えばなんでもやれる年代だと思います。一生懸命やればそれが思い出になるはずです。

2004 平成16年

「高校生活と空手」

(第52回生) 石原 裕 大

平成16(2004)年3月、私は中村高校の校庭前に貼り出された受検番号で自分の合格を確認すると、親に結果を報告するかわりにこう告げました。「“中村”と刺繍の入った空手着をすぐに発注してほしい」と。

あれからもう8年経ったと思うと、不思議な感覚に襲われます。

私は中村高校在学中、空手道の「形(かた)」という競技において、愛知県(東海地区)の代表として全国大会に計4回出場させていただきました。

あの頃はまさに「空手バカ一代」で、勉強そっこのけで空手ばかりに打ち込んでいたのです。中村高校には空手道部がありませんので、放課後は地元の道場はもちろん、県の強化練習や他道場への出稽古、他校の空手道部の練習にも参加し、技を磨きました。今では、よくあそこまで毎日空手ばかりやれたものだと思ひで感心するのですが、同時に、私はなんて多くの人に支えられていたのだろうと思うと、感慨深い気持ちになります。

当時の高校生活で忘れられない存在といえば、1年生の時の学級担任でいらっしゃった織部秀明先生です。先生はご多忙であったにもかかわらず、諸手続きや全国各地への引率を引き受けてくださいました。しかし、私にとって織部先生はただの引率の先生ではなく、私を競技に集中させてくれる「中村高校空手道の顧問」でした。私の身体のこと、精神のこともとても気遣ってください、試合の前と後には、冷静ながら熱い激励の言葉をくださいました。

また、1年目の全国大会のとき、開会式で使うプラカードをタクシーに置き忘れるというまさかの重大事態をしでかしたときには、「君は競技に集中しなさい」と、あの手この手を尽くしてください、事なきを得た、ということもありました。

先生はあらゆる場面で、全力で私のサポートをしてくださり、そのお陰で、私は3年間胸を張って全国の舞台で戦い抜くことができたのです。そして、その3年間の経験は、今でも私の中に生きています。

さて、私は卒業の際、そのプラカードを学校へ置いてきました。今度は置き忘れではなく、私の卒業後も中村高校の後輩たちに、是非それを持って全国の舞台に立ってほしいと願い、残してきたのです。

60周年という新たな節目を迎えた今、長い歴史と伝統をもつ中村高校に、スポーツでも次々と新しい栄光が刻まれていくことを強く願っています。

2005 平成17年

「初めてのメントン訪問」

(第53回生) 瀬治山 めぐ望

平成18(2006)年の夏休み、私を含む当時の2年生3人・1年生2人と引率の先生1人と共に愛知県-ヴィクトリア州との学校間交流事業に参加しました。平日はメントン女子セカンダリーカレッジへ通い、土日はホストファミリーと観光や買い物を楽しみ、まさに英語漬けの3週間を過ごしました。

学校ではバディと共に授業を受け、大学のように自ら授業を選択出来ることや先生と生徒が質問や意見を出し合うことが多く、日本の高等学校との違いに大変驚きました。また、日本語の授業では私達が会話の練習相手になり、読み書きの添削をする機会もありました。「皆さん、こんにちは。お元気ですか？私は元気です。」という挨拶から始まる日本語の授業には少し違和感を覚え面白かったのですが、きっと私達の英語の授業も外国人が見ると同様の面白さがあるのかなと感じたことが強く印象に残っています。Year 7~9(日本の中学生)の学校行事Japan Dayでは、私たち5人の特技を活かして弓道・茶道・書道・日本の伝統的な遊びを紹介しました。彼女達は本当に日本への興味が強く、初めて会う私たちにも「コンニチワ！カワイイ！」と沢山の声を掛けてくれました。最後の登校日にはバディとその友達、Japan Dayで知り合った子達と涙ながらのハグを何回もしました。

ホストファミリーにはコアラのいる動物園やマーケット等の観光地に限らず、ショッピングセンターやスーパーにも数回連れて行ってもらいました。牛乳やパン、お菓子、肉のサイズ・内容量が日本のものより格段に大きいことが私にとってはとても面白く、観光地での思い出より心に残っていることはホストファミリーには内緒です。

17歳の私には初めての経験ばかりでした。海外への興味はより深まり、英語が話せなくとも外国人との会話に対する躊躇が無くなり、何よりも3週間を海外で過ごしたという経験から自分に自信を付けることが出来ました。この貴重な経験を支えてくださった中村高校同窓会をはじめ、PTAの皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。今後も多くの中村生とメントン生が交流し、互いに多くの有意義な時間を過ごして欲しいと思います。

22歳の私の目標は、来春入社する会社での海外出張・勤務です。

2006 平成18年

「平成の遣中使」

(第54回生) 穂坂 尚子

「針の穴から天を覗く」この諺を実感したのは平成18(2006)年の「平成の遣中使」中国訪問でした。

旅行前の中国のイメージは、大好きな漢文・漢字の発祥地、魯迅の国、しかし反面、前年におこった中国における反日デモなど正と負のイメージが混在していました。

私がホームステイさせて頂いた家庭では、私より1歳年上の子がいたため、彼女の行きつけのカラオケ店や地下街に連れて行ってくれ、夜が更けるまで遊びました。私は夜間の外出を両親に叱られないのか心配しましたが、一人っ子政策で子供の数が少ないため、夜12時遅くまで遊ぶことについては両親が寛容であることを彼女は教えてくれました。私は夜遅く遊んで帰宅したら後は寝るだけですが、中国の高校生は夜中に帰宅してから勉強するため朝から眠そうにしていることがありました。勉強熱心ではありますが、成長期にはあまりよくないのではないのかと自分の勉強不熱心さを棚に上げて心配してしまいました。

ホームステイの夜、私は枕の下に掛布団が置いてあるのを「中国人は大きな枕で掛布団なしに寝る。」と勘違いし、掛布団なしに寝てしまい、誤解だと気づいたのは朝になってからでした。

この研修から、同世代の中国人の暮らしや考え方を学び友好を深めると同時に、自分の視野が広がるのを感じました。たとえ、よいイメージでも固定観念があれば、物事を見る幅は狭くなります。その狭い範囲で人を判断すれば、人間関係を築く上での障害となります。例えば、私は看護の勉強をしていますが、質の高い看護ケアは患者を広い視野で観察し、何を必要としているかを理解することから始まります。これは中国研修で学んだからこそ、広い視野で見るとということが理解できました。私はステイ先の子の睡眠時間を削った勉強の仕方から、成長期の健康増進について学びたいと思い、看護師を志すきっかけにもなりました。

この体験は、私の人生における転換でもあり、現在の私の根底であるとも感じています。この体験は高校時代における珠玉の思い出の1つです。



2007 平成19年

「文化祭の思い出」

(第55回生) 伊藤 新

僕が中村高校に在籍したのは平成19(2007)年からの3年間。この間に数えきれないほどの思い出がありますが、その中で最も華のある思い出の一つが3年生の時の文化祭です。

一般的にも文化祭と言えば思い出に残りやすい行事ですが、僕にとって3年生の文化祭は特別でした。そもそも僕は2年生の時は生徒会長としての仕事があり、なかなか普通に満喫するということができていなかったのです。そんな僕にとって、3年生の文化祭は普通に満喫できたので特に印象深いのです。

中村高校の文化祭は3年生が各クラスで演劇をするという暗黙の了解のようなものがあり、僕の代でも演劇の発表を行いました。僕は毎年裏方ばかりしているからか裏方作業に慣れてしまい、演劇発表の中で台本作成の任にあたっていました。当時人気だったドラマを元ネタにしたタイトルをクラスで決めて、そこからが僕の仕事でした。夏休みの間にそのドラマのDVDを3、4本ほど借りてきて構成を調べたりして、そこから書き上げた台本の元をクラスの人と相談して完成させました。その台本については、今でもそうですが僕には人を意図的に笑わせるセンスに欠けるようで、笑わせる部分に関して随分と批判意見を頂いたのが特に印象深いです。しかし、そんな台本でも出来上がったときの達成感や充実感といった感動も忘れられない思い出です。

また、本当なら僕の仕事はここまでだったのですが、文化祭当日に友人の一人が役を一度代わってくれるという事がありました。この友人は1年生の時から交流があり、僕の勝手な想像ですが、それまで生徒会等でなかなか普通に文化祭を満喫してこなかった僕を気遣って思い出づくりをさせてくれたのだと思います。その友人のおかげもあり、なんとこの日僕は演劇の主演を演じるという、とても得がたい経験をすることができました。

今、僕は大学生となって数年が経ちました未だに当時の友人と文化祭の話題になれば、僕の笑いのセンスのなさの話や、配役の話など語る話が尽きません。そして、それだけ

の思い出を作らせてくれた中村高校は僕にとってとても大切な場所となりました。ここで出来た友人や先生方、そしてそんな大切な方々に出会わせてくれた中村高校への感謝をもって、僕の思い出話の結びとさせていただきます。



2008 平成20年

「パンデミック修学旅行」

(第56回生) 伊藤 祐子

平成22(2010)年9月、56回生修学旅行。「○○さん、早退したって!」そんな声が飛び交っていました。私たちの修学旅行中は、新型インフルエンザの流行真っ最中だったのです。

私たちの年から、行き先が初めて神戸になりました。事前に準備していった持ち物は、携帯電話、財布、タオル、お菓子、歯磨きセット…そして念のための“マスク”。学校側から、“念のため”一人3枚程度は持ってくるのが指示されていました。中村高校修学旅行生全員のカバンにマスクが入っているという奇妙な状態での修学旅行の出発でした。

私たちのクラス207には、ズィンニーというマレーシアからの留学生の女の子がいました。マレー語、広東語、中国語、英語、日本語と5か国語も話せる一つ年上のズィンニーは凄く可愛くてクラスでも人気者でした。一番すごかったのは高堂先生の世界史の授業です。ズィンニーの為に高堂先生は世界史を英語と日本語の二か国語で講義してくれました。おかげで、日本人の私たちもプリントには日本語名と英語名の両単語で書いていきました。今大学生になってもあのようなグローバルな授業はそうそうありません。楽しかったです。私は一度、ズィンニーに「眠い授業とかも寝てないけど眠くないの?」と聞いたことがあります。すると「眠いから寝たいけど、留学生だから先生絶対見ているから寝られない…。」と流暢な日本語が返ってきました。留学生の本音が聞けたみたいで、なぜか今でも覚えています。そんなズィンニーと今もFacebookやtwitterで繋がっている元207の生徒はたくさんいます。彼女が中村高校に来てちょうど半年が経った頃、ズィンニーもこの修学旅行をととても楽しみにしていました。

修学旅行の初日は、神戸市内での自由行動です。同じ班の1人の女の子が少し熱っぽいと訴えていたものの、楽しみにしていた南京町へと私たちは一緒に繰り出しました。班長の私は念のために先生の携帯番号を登録しておき、何かあったら電話することにしました。私たちの班がオランダ館で香水を作っている時、彼女が結構辛そうだったので先生に電話をしました。それから先生と一緒にちょっと休憩をするということで、彼女を先生に任せました。その夜、私たちのクラスはバスに乗り、ディナークルーズの乗船場へと向かっていました。昼間の彼女もとりあえず復活し、私と隣同士で座っていました。彼女は少し咳こんでいたけれど楽しく話していました。バスを降りて、クルーザーの前でクラス写真です。今思えば、207の全員が写っている写真はこれだけでした。

その日のうちに、彼女がインフルエンザだったから早退するという情報を耳にしました。先生たちも警戒し始め、生徒たちにマスク着用の義務付けをしていきました。念のためだったマスクをフル活用です。ここからが恐ろしいものでした。宮島の旅館で修学旅行らしい楽しい夜を過ごしていると、一通のメールが届きました。「○○君インフルエンザで早退だって!」そこからというもの、207の何人かが体調不良を訴えだし、本当にインフルエンザ

にかかって早退していきました。最終的には、宮島での207のクラス集合写真は10人くらい足りないものとなっています。3日間で3回撮ったクラス写真は1日目、2日目と時が経つにつれ、何人かずつ減っていくというホラー的なものになってしまいました。しかも、みんなマスクを顎にずらして写っています。

修学旅行から帰宅してからというもの、私もダルさを感じました。もしやインフルエンザ…!?と思い、早めに就寝して朝起きてみるととても元気な自分が待っていました。全くかかかっていませんでした。しかし次の日、うちのクラスだけ学級閉鎖となりました。後日現像した写真は、みんなマスクばかりです。まさに、パンデミックな修学旅行でした。

3年生になってからは、受験勉強も本格的になりましたが文化祭の劇に命がけで力を入れていました。猛暑の中、みんなで自転車に乗り八田のカーマまで重たい板を買に行ったり、暑い廊下で汗だくになりながら飾りつけをしたり、たまに頂ける先生の差し入れのアイスがとてつもなく美味しかったり。どのクラスも本当に甲乙つけがたい作り込まれた劇となりました。どの生徒も自分のクラスが絶対金賞!と今でも思っているでしょう。この辺の思い出は濃すぎて本を出版できそうです。

冬になると、毎年恒例の卒業パフォーマンスの実行委員を募集し始めました。私は瞬時に実行委員になりました。ここでも今までにないものをつくろうと、1,2年生には見せない3年生だけのお楽しみムービーを作りました。私たち実行委員は、お世話になった先生方から写真を集めました。しかも私たちと同世代の頃の古い写真です。この無謀かつ失礼なチャレンジを“もうすぐ卒業”という身分を利用して、ずうずうしく始めました。各実行委員が口説けそうな先生を見つけ、交渉に出向いた結果、なんと中村高校の先生ほぼ全員の写真が集まりました。校長先生までも提供して頂けました。それから、転勤してしまった先生方の転勤先にも出向き、ビデオレターを撮らせて頂きました。サプライズで各クラスから担任の先生へのメッセージも撮りました。このような皆さんの挑戦を盛り込んでみんなで作ったムービーは、「うわー!校長先生、昔イケメン!!」とか、「舟橋先生久しぶりだ!」など、担任の先生のサプライズのところでは泣いてくださったり、本番では大大好評でした。その後、なんと先生方からも私たちにに向けて劇をしていただけました。いつも真面目に授業をしてくれている先生たちが、私たちと同じ学生服を着て本気で演じて踊っていました。凄く面白かったです。先生たちのこの劇があったからなのか、次の日の卒業式は、生徒のほとんどが黒髪で登校してきました。例年キャバクラかと思うくらいの髪型が中村の卒業式には出沒していたらしいのですが、私たちの学年は、真っ黒で感動できる卒業式となりました。

私たちの代から髪の毛やリボンなどの色に対しての校則が厳しくなりました。先輩より多めにチェックを受けてきた私たちは色々反発してきました。しかし、学年を重ねるにつれ、反発も少なくなり、3年生の文化祭の劇で一丸となった姿を先生方に見せられたと思っております。一度しかない高校3年間が中村で過ごせて本当に良かったです。

中村高校、楽しかった!!!

2009 平成21年

「高校生活と弓道」

(第57回生) 沖田 佑真

中村高校創立60周年を心からお祝い申し上げます。

私は、第57回生の一員として中村高校とともに人生の中でもっとも大切な3年間を過ごしてきました。

思えば、平成21(2009)年の春、世間では、桜島の噴火や北朝鮮のミサイル発射実験など、心苦しいニュースが立て続けにあり、私も不安を抱えての入学となりました。しかし、そんな私を待っていたのは、賑やかで笑いが絶えないクラス、優しい先生方、そして楽しく自分自身を子供から大人へと成長させてくれた部活動でした。

そんな中、中村高校に入学する前に決めていたことがあります。それは、高校に入ったら弓道部に入るということでした。なぜかという、弓道というのは、みんな高校から始めるものだと思っており、人一倍努力すれば必ず全国大会に出場することが出来るだろうと思っていたからです。

しかし、県大会など上の大会に行くと中学生から始めた人が約半数を占めておりましたが…。

そんな弓道部を初めて訪れたのが4月13日の仮入部初日でした。道場に入ると先輩方がとても優しく迎えてくれました。そのお陰もあってか、男子19人女子20人の同期と一緒に弓の道を歩んでいくこととなりました。

また、入学して間もないということもあり、勉強と部活の両立は大変でしたが、1年先輩の川島大貴先輩や弓道部顧問の岩田賢治先生、師範の梅田克一先生のご指導もありみると上達していき、夏休みには、中村スポーツセンターにも毎日のように通い詰めるようになり、教士六段の浅野治先生にもご指導をいただき、ますます弓道にのめりこんでいきました。

そして、1年生の1月16・17日の第28回東海高等学校弓道選抜大会に出場してから、3年生の秋に国民体育大会(以下、国体)に出場する間に、2年生の国体での4位入賞や3回の東海大会への出場など、大変貴重な体験をたくさんさせていただきました。その中で高校の枠を超えた皆さんの友人や先生方と交流を深めることができました。

そのような成績を残させていただく中で、高校生活最後の公式戦となる第66回国民体育大会「おいでませ!山口国体」に出場させていただき、入賞はできませんでしたが、楽しい高校生活の幕締めにふさわしい大会になりました。

最後に、ここまでの成績を残せたのは一人の力ではとても無理でした。顧問の岩田先生や先輩方、同輩、後輩のみんなが支えてくれたからだと思います。この素敵な思い出を胸に、この先の立命館大学体育会弓道部での辛いことや、社会に出てからの辛く苦しいことを乗り越えていきたいと思っています。

また、このような素敵な体験を後輩みんなができることと、中村高校の今後ますますの発展を祈ってお祝いの言葉とさせていただきます。

2010 平成22年

「球技大会の思い出」

(第58回生) 丹 菊 夏 美

私が高校生活で一番心に残っているのは、平成24年5月29日の高校生活最後の球技大会です。私はこの球技大会までは、好きな友達とやりたいので苦手なバスケットボールとサッカーに出場していました。1・2年生で出場したバスケットボールでは、積極的にボールを追いかけて活躍するわけでもなく、もらったパスでシュートが入ればいいな、という感じでした。円陣を組んだり騒いだりして、盛り上がってはいるけれど、気持ちの面では勝ちたいと強く思う訳でもなく、ただ騒いで楽しんでいただけでした。髪型やクラスTシャツの着方の方に興味があって、完璧に『球技よりファッション』でした。なので、あとあと写真を見ても、何か物足りなさを感じていました。

だけど今回は、中学で経験のあるバレーボールにしました。メンバーは、仲良しの子やあまり関わったことのない子も含む10人です。経験者は2、3人で現役はいなかったけれど、元気さとノリはどこのクラスにも負けていませんでした。1点取るごとにみんなでハイタッチや大声で喜んだり笑い合いました。点を取られても何かしら騒いで、前向きでした。決勝は負けてしまったけれど、それまでの2試合の勝った時の、表現したら狂ってしまいそうなほどの喜びや嬉しさ、担任の先生も含んだみんなで囲んだ円陣が、今でも強く心に残っています。

それまで私の中での球技大会は、スポーツというより、髪型や服装を頑張るファッションショーと思っていました。けれど今回は、髪型がくずれるのも忘れるくらい熱中してました！球技大会って、みんなで写真を撮って、楽しんだ証を残すだけでなく、どれだけ時間が過ぎても思い出すと口がゆるんでしまう、目に見えない感情の思い出も残る、すばらしい行事だと気づく事ができました。また、関わったことのない子とも仲よくなれて、クラスも団結して、本当に中村高校に来て良かったと思います。一人一人個性が強く、その個性を出しきれぬ中村が大好きです。それを実感させてくれた球技大会やその他の行事、一生私の大切な思い出です。



2011 平成23年

「信じる力」

(第59回生) 遠 島 一 生

僕はラグビー部に所属しています。中学の頃まではラグビーって激しいスポーツで、タックルして、変わった形のボールだなあくらいの印象で、具体的にどんなスポーツかよく知りませんでした。

ラグビーは球技の中では多い15人で行うスポーツです。漢字では「闘球」と書きます。その字のまま、格闘技にも近いと思います。試合が始まりグラウンドに立てば、そこはもう戦場です。倒すか倒されるかの勝負です。普段どんなに優しい人間でも、グラウンドに立てば目つきが変わり、闘争心が溢れ出します。最初の頃は、誰でも「タックルが痛い、怖い」と思っていますが、慣れてくると痛さや怖さなど忘れ、「タックルが決まって嬉しい」「トライをして勝って楽しい」という感情に変化していきます。

小中学生の頃は野球をやっていて、ただ楽しく部活に参加していました。中村高校に入学し、今までとは違ったものをやってみたいと思い、ラグビー部に入部しました。そして、こんなにも熱いスポーツがあったんだと気付きました。

ラグビーは15人のうち14人が真剣にやっても、一人が手を抜いていればそこが穴となり負けてしまいます。ラグビーは15人で攻め、15人で守るスポーツです。一人でもミスをするところから崩れてしまいます。One for all, All for one. 一人はみんなのために、みんなは一人のために、身体を張るといことが大事だなと思いました。だからラグビーは楽しくやるだけではいけないと思い、楽しみながらもやる時はやるというけじめをつけて練習しようと思っています。

中村高校ラグビー部は決して強いチームとは言えません。でも、顧問の丹後先生はこう言います。「どんなに厳しい練習でも、この練習を続けたら強くなれると信じてやれば、必ず強くなる」と。試合の時には、一緒にプレーをする仲間を信じる。仲間に信じてもらう。そして、自分のプレーを信じる。そうすることで「勝利」を収めることができると思います。

だから中村高校ラグビー部は「信じること」を大切に、これからも日々努力していきます。



2012 平成24年

「中村高校に入学して」

(第60回生) 小島 真実

私が、創立60周年を迎える中村高校に入学して半年の月日が過ぎました。そこで、これから私が歩みたい未来や理想の高校生活について考えてみました。

私が理想とする高校生活は、たくさんの人に私の“元気パワー”を分けてあげたり、つらい時は相談にのってあげられて、だれからも頼りにされる存在、小島になら安心して任せられる。そんな事をいってもらえるような存在に、3年間のうちで成長することです。

私は、いままでの人生の中で、誰かに頼りにされる回数よりも、誰かを頼ってしまう方が多かったです。ですが、誰かに頼りっきりでは自分は成長できません。これから自分の未来を切り開いていくためにも、3年間で成長し、自分自身を変えていこうと思います。

私がかんがりたいこと、それは部活と勉強の両立です。私は体操部に入っています。私以外の1年生部員や先輩達はすごく上手くて、私とは全然くらべものになりません。でも、少しでも部員みんなに近づけるように、これからは練習をがんばりたいし、大会で良い演技ができるように努力していきたいです。部活と同じくらいがんばらなきゃいけないのが勉強です。高校の授業内容は、中学の授業内容

よりもレベルがすごく上がっていて、授業についていくのに必死ですが、自分に甘くせず、努力を怠ることのないようにして、部活と勉強を両立させていきたいです。また、その他にもみんなで体育祭や文化祭を笑顔でいられるようにしたいと思っています。年に一度の大切な行事だからこそ、みんなと笑い合っって良い思い出を作りたいです。そして、今年60周年という節目の年なので、学校祭テーマである「中村ダイヤモンド～60年の結晶～」のダイヤモンドのように、輝く笑顔をより多く見える文化祭、体育祭にしたい。これが私のもう一つのかんがりたい事です。

私がかんがりたい未来は、夢を叶えて幸せに暮らす事です。私の夢は声優になることです。声優になる事は、辛く険しい山を登る事になるかもしれません。ですが、私はこの夢を絶対にあきらめたくはありません。それは、この仕事は人に夢を、笑顔を分けてあげられるすばらしい仕事だからです。人に笑顔をたくさん分けてあげたい、この気持ちが私に絶対に夢をあきらめないという強い意志の柱なのかもしれません。私はこの柱を折らないように、全力で夢へと走って行きたいと思います。

今回、私がかこの文を書くにあたって、自分の未来について考えるいいチャンスとなりました。そのおかげで、3年後までの目標を見つけることができ、私の人生をかけて叶えたい夢を再びみつめ直すことができました。これから私は、自分の未来について考える機会を増やそうと思いました。

教養講座「中村未来塾」がんばれ中村高校生!!

- 第1回 城 祐一郎氏 (21回生) 大阪地方区検察庁 特別捜査部副部長 「これからの司法制度と犯罪捜査」 (役職は当時)
- 第2回 伊藤 義人氏 (16回生) 名古屋大学大学院工学研究科教授 「変わりゆく国立大学と大学図書館」
- 第3回 飯田紀久夫氏 (34回生) NHK名古屋放送局アナウンサー 「放送ってどんな仕事?～デジタル時代で変わるもの・変わらないこと～」
- 第4回 伊藤 伸幸氏 (26回生) 名古屋大学文学研究科助手 「発掘の現場から」
- 第5回 若山 三郎氏 (26回生) わかやま整形外科院長 「リハビリテーションに求められるもの—整形外科の現場から—」
- 第6回 堀田あけみ氏 (28回生) 作家 「幸福になる力」
- 第7回 山本 益司氏 (29回生) 御菓子司「松葉堂」店主で 「和菓子と私」
- 第8回 桑原 宏司氏 (15回生) サンデーフォークプロモーション取締役相談役 「僕たちの音楽ビジネス」
- 第9回 内藤 洋子氏 (14回生) エッセイスト、日本ペンクラブ会員 「チャンスは誰にでも」
- 第10回 落合 夕子氏 (15回生) JAL アカデミー(株) ビジネスマナー講師 「ステキな日本人のマナー」
- 第11回 井上 真一氏 (22回生) 桜花学園高校バスケットボール部監督 「勝負の神様」
- 第12回 北原 政子氏 (8回生) 名古屋市科学館のプラネタリウムの企画、製作、解説 「宇宙にロマンを感じるとき」
- 第13回 佐藤 元嗣氏 (15回生) 愛知県警察本部科学捜査研究所
- 第14回 串田 義和氏 (44回生) ヤマハ発動機ラグビーチームジュビロ主将 「This is my Life」
- 第15回 高木 靖之氏 (26回生) 東翔エステート(株) 代表取締役 「肩書きにしがみつかない生き方～君も経営者になれる～」
- 第16回 加藤 誠司氏 (26回生) 名古屋市総務局総合調整部主幹 「陸前高田までのご支援」
- 第17回 荒井 清明氏 (18回生) (株)コージェネシシステム代表取締役 「原子力実験船「むつ」原子炉プラント運転経験 ～今、原子力を考える～」
- 第18回 岡田 政久氏 (10回生) 元富士レディオ(株) 研究部長 「私の歩んできた道 ー人生は努力でやり直しができるー」
- 第19回 石黒不二代氏 (21回生) ネットイヤー(株) CEO 「Beyond the Limit」
- 第20回 長尾 幸彦氏 (29回生) 株式会社教育システム代表取締役 「高校生のためのネット社会の歩き方」

第20回 高校生のためのネット社会の歩き方 —知らないでいると将来がなくなるこわい話—

なが おゆきひこ
平成26年11月7日 中村高校 **長尾幸彦氏** (29回生)
(株式会社教育システム代表取締役)



高校1年生を対象に開催された今回の中村未来塾、講師は高校生の親世代の49歳になる長尾氏(29回生)でした。長尾氏は中村高校卒業後、学習院大学を経て「新学社」、「ナガヲ正文堂」、「教育システム」(代表取締役)という経歴です。さらにこの間日本教育工学会員、ネットいじめ対応アドバイザー、情報ネットワーク教育活用研究協議会会員、愛知県書店商業組合理事等という数多くの肩書きを持っています。

長尾さんの話の中心はSNSが発達する現在社会の中で学歴があればいいという社会ではなくなってきた、自分が何をやるかが問われる社会に変わってきたことを事例を交えて高校生に説明していました。ホンダの創業者の本田宗一郎の話、有名大学を出たのに「オウム」に走った青年、ネット

に安易に不適切な写真をアップして莫大な損害賠償を請求されたり、人生を棒に振ったりした青年の話など生々しい話の連続に聞いていた高校生の顔が真剣になっていきました。

最後に「ラインを使ったいじめ」を具体的な事例を若干脚色して見せました。口には出せない「死ぬ」という言葉がいつも簡単に書き込まれ、次々に連鎖していく恐怖がプレゼンされていくと会場は水を打ったようにシーンとなりました。あつてはならないことですが現実には青年がSNSで自死してしまう事例がマスコミを通じて報道されています。自分には関係ないでは済まない「既読」問題を見せてくれました。

最後に長尾さんは「与える人になってください」と高校生にエールを贈っていました。自分のことばかり考えずに周りの人とうまく人間関係を切り結ぶ「コミュニケーション能力」が現代社会はキーワードになっています。2個のミカンを3人で分けるにはどうすればいいのか、問われた高校生は、「自分是我慢して2人にあげる」と答えていました。単純に割り算するのではなく、違った答えがあるのが人生です。

人としてどう生きていくことが大事なのかを考えさせた講演でした。

(17回生 川合)

まとめ

- ・ 便利なものに潜む危険を考え上手に使いましょう。
- ・ 奪うのではなく「与える人」になってください。

総会・講演会・懇親会

平成26年5月11日(日)
於：ザ・グランド・ティアラ名古屋駅前

中村会の総会が5月11日(日)に行われました。

総会では役員の変更が行われ、新しい役員が選出されました。

中村会創立60周年が来年に迫る中での総会となったことで、会長に選ばれた宮崎晃吉さん(15回生)は挨拶の中で、50周年のことを引き合いに出しながらみんなで広げていけば200人を超える会になると総会懇親会に参加した人たちに訴えかけました。

今年3月の卒業式で新たに仲間に加わった59回生、21人の若々しいエネルギーを先輩同窓生が吸収した中村会総会・懇親会でした。

【講演会】



19回生の鬼頭孝治さん(三重大学院准教授)の「エネルギー利用の現状と課題」というテーマで講演をして頂きました。

自分の履歴の紹介と共に「What is your BIO?」ということでエネルギー問題について話を深めていきました。「エネルギー保存の法則」が言われているのにもかかわらず、エネルギーは無くなっていくのはどうしてか。それは電気エネルギーを100としたときに光エネルギーが60%、熱エネルギー40%となるために失われるエネルギーが生まれてしまうという話でした。火力発電所は41~43%の交換効率になり、6割は捨てている、ガソリン車は16~20%でほとんどを捨てているという話でした。

こうした中で自然エネルギーが注目されてきています。太陽エネルギーを始め、風力、地熱、バイオエネルギー、バイオマスがあるがそれぞれにまだ課題があり、今後の研究に待たれているという話でした。

中村高校年表（60年の軌跡）

*年度（4月～翌年3月）内の出来事を記載
*クラスは新入生のクラス数

西暦	元号	回生	クラス	生徒募集・学校整備など	学校行事・部活動など
1953	昭和28	1	3	・松蔭高校の仮校舎にて入学式（4.6） ・第1学年普通科108名、家庭科53名（3クラス）小学区制 ・校舎はまだなく、松蔭高校の一画の教室で授業	・運動部 サッカー、バレーボール、卓球、テニス ・文化部 英語、化学、物理、演劇、音楽、美術、茶華道、珠算
1954	昭和29	2	3	・新入生普通科150名に（家庭科廃止） ・新校舎へ移転（10.12）、校旗制定	・新校舎へ移転後、生徒によりグラウンドの整地・石ころ拾い・除草が続く ・校内マラソン大会
1955	昭和30	3	5	・新入生普通科250名に（学区拡大）	・1年生オリエンテーション合宿（野間） ・演劇部 中部日本演劇コンクール5位 ・部新設（軟式）野球、バスケットボール、書道、タイプ、文芸、園芸 ・同窓会発足
1956	昭和31	4	5	・小学区制が廃止され、尾張、三河の二大学区制に ・第2棟西校舎竣工（第2棟は、西、中央、東を別々に建設） ・応援歌・行進歌ができる	・女子宿泊訓練（作法など）
1957	昭和32	5	5	・第2棟中央校舎竣工	
1958	昭和33	6	5	・講堂兼体育館竣工（現在は新体育館に）、弓道場竣工 ・創立5周年記念式典 ・校歌制定（それまでは校歌のかわりに学園歌が歌われていた）	
1959	昭和34	7	7	・新入生7クラス350名に ・伊勢湾台風被災 講堂は救援物資の集積所に	・生徒会・JRC が救援活動に参加
1960	昭和35	8	7	・第2棟校舎の増改築	・奥穂高登山
1961	昭和36	9	7		・読書会（毎月1回以上）、レコード・コンサート（月1回）
1962	昭和37	10	8	・新入生8クラス400名 ・創立10周年記念式典	・臨海学校（鳥羽）
1963	昭和38	11	10	・新入生10クラス550名に ・第1棟2階増築	・水泳訓練（稲葉地プール） ・登山訓練（上高地、常念岳） ・映画「アラビアのロレンス」鑑賞
1964	昭和39	12	11	・新入生11クラス605名に（本校で最大） ・プール竣工	・ボンファイアー実施
1965	昭和40	13	10	・新入生10クラス550名に	・第1回水泳大会
1966	昭和41	14	10	・新入生10クラス530名に	・読書会
1967	昭和42	15	10	・新入生10クラス500名に	
1968	昭和43	16	10	・新入生10クラス470名に ・第3棟校舎・武道場（1階）竣工	・読書会が年中行事となる（第1回） ・生徒会機関誌「なかむら」創刊 ・弓道部 インターハイ出場 ・（軟式）野球部 新人県大会優勝
1969	昭和44	17	10	・新入生10クラス450名に	・文化祭で寸劇コンクール始まる
1970	昭和45	18	10	・体育クラブ室竣工	・文化祭で合唱コンクール始まる
1971	昭和46	19	10	・武道場（2階）竣工	
1972	昭和47	20	10	・第3棟特別教室竣工 ・創立20周年記念式典	・弓道部 インターハイ出場
1973	昭和48	21	10	・学校群制度スタート（5群－名古屋西、中村 6群－中村、明和） ・テニス・バレーコート整備	・文化祭で「どぶ川学級」鑑賞
1974	昭和49	22	10	・屋外便所竣工	
1975	昭和50	23	10	・体育クラブ室 ・2－3棟渡り竣工	
1976	昭和51	24	10	・第4棟校舎竣工	・学年末考査後、2年ラグビー大会（～昭60）
1977	昭和52	25	10	・第1棟校舎改修	・学校祭執行部企画「特設ステージ」
1978	昭和53	26	10	・第2棟西校舎改修 ・国公立大学 共通一次試験開始（～昭63）	・（軟式）野球部 県大会決勝出場・東海大会へ
1979	昭和54	27	10	・第2棟東校舎改修	・陸上部 100m インターハイ決勝出場（大学では世界学生選手権に日本代表として出場） ・女子創作ダンス発表会（～昭62） ・学芸の行事 映画「アニーホール」
1980	昭和55	28	10	・正門移設（現在の通用門の場所が正門だった）	・生徒会 文芸コンクール（～平4） ・学芸の行事 名フィル・コンサート
1981	昭和56	29	10		・堀田あけみさん「1980アイコ十六歳」、文藝賞（河出書房新社）受賞（最年少受賞） ・硬式野球部創設
1982	昭和57	30	9	・新入生9クラス405名に	・学校祭 クラス別発表全学年義務化 ・ラグビー同好会、鉄道研究部発足 ・囲碁将棋部 全国大会出場
1983	昭和58	31	10	・新入生10クラス470名に ・創立30周年記念式典 ・新体育館竣工	・卓球部 中部日本大会に出場 ・学芸の行事で「狂言」鑑賞
1984	昭和59	32	10	・生徒通路舗装	・弓道部 東海大会で個人優勝
1985	昭和60	33	10	・1－2棟渡り竣工	・硬式テニス部創設

西暦	元号	回生	クラス	生徒募集・学校整備など	学校行事・部活動など
1986	昭和61	34	10	・グラウンド体育器具庫・スポーツ開放クラブ室竣工	
1987	昭和62	35	10	・中庭花壇整備	・陸上部 東海総体1600m リレー 8位 ・RPG 部発足
1988	昭和63	36	10		・陸上部 国体400m ハードル 8位 全国大会 8種競技優勝 ・S.A.P.コンクール (書道、絵画、写真)
1989	昭和64 平成元	37	10	・複合選抜制度スタート (学校群制度廃止) ・大学入試センターテスト開始	・学芸的行事 演劇「山月記」鑑賞
1990	平成2	38	10	・新入生10クラス460名に	
1991	平成3	39	10	・新入生10クラス450名に	・部活動41部に ・第2棟校舎南花壇で竜舌蘭開花 (珍しい)
1992	平成4	40	10	・新入生10クラス440名に ・第2土曜日が休日に (9月から) ・創立40周年記念式典	
1993	平成5	41	10	・新入生10クラス420名に	・陸上部 円盤投げでインターハイ出場
1994	平成6	42	10		・体育祭 応援パフォーマンス・ボード設置開始
1995	平成7	43	10	・新入生10クラス400名に ・第2・4土曜日が休日に (9月から)	・陸上部 1600m リレー、100m インターハイ出場 ・学芸的行事 演劇「Touch」
1996	平成8	44	10	・正門東用水路が道路に	・演劇部 中部大会出場「おぼば」 ・「Dear」が全国中高生ディスク & テープ大賞ベスト作詞作曲部門賞受賞 ・学芸的行事 音楽「シンセサイザーとその仲間」
1997	平成9	45	10	・正門北に信号	・学芸的行事 劇団うりんこ「ほらふきさん」
1998	平成10	46	10		・最後のボン・ファイアー (ダイオキシン対策) ・学芸的行事 劇団青い森「見えないネコ、声を出せない僕」
1999	平成11	47	10	・ジュース等の自動販売機設置 (生徒会の要望による)	・学芸的行事 映画「パッチアダムス」 ・陸上部 インターハイ出場
2000	平成12	48	10	・東海豪雨により上流で庄内川決壊 (文化祭日程短縮)	・美術部 学展油絵部門大賞 (加藤誠示君) (校長室前の廊下に展示) ・学芸的行事 映画「アンドリュウ」
2001	平成13	49	10		・学芸的行事 演劇「ディアノーパディー」
2002	平成14	50	9	・新入生9クラス360名に ・学校週5日制に ・第3棟特別教室改修、耐震補強工事 ・創立50周年記念式典	・JRC 部復活 ・ダンス同好会活動開始 ・囲碁・将棋部 全国大会出場
2003	平成15	51	9	・耐震補強工事	・ダンス部 全国ダンスフェスティバル入選
2004	平成16	52	9	・耐震補強工事	・空手 個人インターハイ出場
2005	平成17	53	8	・新入生8クラス320名に ・「中村未来塾」開講	・同窓会50周年
2006	平成18	54	8	・オーストラリア メントン・ガールズ・セカンダリー・カレッジ (MGSC) との学校間交流開始 (派遣) ・アメリカン・サマー・キャンプ開始	・ダンス部 全国ダンスフェスティバル入選 特別賞「独創的な発想」 ・放送部 NHK杯全国放送コンテスト出場
2007	平成19	55	8		・ダンス部 全国ダンスフェスティバル入選
2008	平成20	56	8		・ダンス部 全国ダンスフェスティバル入選
2009	平成21	57	9	・新入生9クラス360名に	・ダンス部 全国ダンスフェスティバル入選 ・弓道部 東海大会団体3位、個人2位 ・卓球部 中部日本選手権個人出場
2010	平成22	58	9	・オーストラリア MGSC と姉妹校提携	・ダンス部 全国ダンスフェスティバル入選 ・弓道部 全国大会団体出場 (男女) 国体個人4位
2011	平成23	59	8	・新入生8クラス320名に	・ダンス部 NFCC全国ハイスクールダンスコンペティション 特別賞・エンタテイメント賞 ・弓道部 東海大会団体出場、個人5位 ・吹奏楽 (音楽部) 活動開始
2012	平成24	60	9	・新入生9クラス360名に ・創立60周年記念式典 (11.2)	・弓道部 東海選抜大会団体出場
2013	平成25	61	9		・体操競技部 東海大会出場、個人14位
2014	平成26	62	9		・ダンス部 全国ダンスフェスティバル入選 ・演劇部 中部大会出場

愛知県立中村高等学校同窓会会長名

初代 小出弘文 (1回生) 昭和31年(1956)～ (不明)	6代 柘植佳孝 (1回生) 平成4年(1992)～17年(2005)
2代 水谷嘉宏 (2回生) (不明)	7代 萩原義昭 (10回生) 平成18年(2006)～20年(2008)
3代 高橋勝英 (1回生) (不明)	8代 中村旅人 (9回生) 平成20年(2008)～平成21年(2009)
4代 山崎泰一 (1回生) 昭和48年(1973)～49年(1974)	9代 高村義男 (2回生) 平成22年(2010)～平成25年(2013)
5代 二村忠雄 (1回生) 昭和50年(1975)～平成3年(1991)	10代 宮崎晃吉 (15回生) 平成26年(2014)～

同窓会は「英気の泉」を通して、 中村高校をサポートしています。

Q「英気の泉」とは？

寄付によってまかなわれている同窓会の教育振興基金です。同窓会の創立50周年を記念して、平成17年度にスタートしました。

【基金振込先】

三菱東京 UFJ 銀行
柳橋支店 普通預金 4709739
英気の泉 代表 萩原義昭

Q「英気の泉」は何に使われるの？

国際交流活動、部活動などの県外への遠征、その他校長が必要と認める事業に対して助成します。今までに、開校60周年を記念して開設されたブラスバンド部の楽器の購入や、アメリカン・サマー・キャンプ、ヴィクトリア州学校間交流事業、インターハイ遠征などに対して協力をしました。

お礼の言葉

62回生 1年5組 村田真歩

「ヴィクトリア州学校間交流事業に参加して」

夏休みに私たち15人の生徒は、オーストラリアのヴィクトリア州にある MGSC に2週間通い、ホームステイの体験をしました。ホームステイは行く前は不安がいっぱいでしたが、私とホストステューデントがバレエを習っているという共通点もあり、すぐに打ち解けることができました。とても優しく賑やかな5人家族で、日本好きのパパはとてもダンディで話しやすく、料理上手のママは、毎日ランチのサンドイッチと休憩時間用のお菓子和物を用意してくれました。バレエのレッスンにも参加させてもらい、先生から「Good girl」とお言葉をいただくこともできました。バレエは世界共通であり、美しいスタイルで真剣に踊る姿に刺激を受けました。

学校 (MGSC) では、みんな笑顔で声を掛けてくれたので、身振り手振りを交えながらコミュニケーションを取ることができました。驚いたことに生徒全員がiPadかノートパソコンを所持し、授業用ノートはありませんでした。また、ジャパンデイというイベントを企画し、現地の高校生達に習字を披露し、漢字を教えることもできました。

とても短い期間でしたが絆は深まり、大変有意義な時間を過ごすことができました。同窓会の英気の泉から、私たちの活動の援助をしていただいていると聞きました。本当にありがとうございます。



◆ 教育振興基金「英気の泉」の運用に関する規定 ◆

- 第1条 教育振興基金「英気の泉」(以下「英気の泉」とする)は、中村高等学校の教育の発展に資する事業に対する助成を行うことを目的とする。
- 第2条 「英気の泉」の会計は、同窓会による基金、及びこの趣旨に賛同する個人又は団体からの寄付をもって当てるものとする。
- 第3条 助成の対象となるのは、次の3事業とする。
- (1) 国際交流活動：①国際理解教育を推進するための事業
②生徒及び教職員等の海外研修事業
③長期留学生徒への奨励
 - (2) 部活動などの県外への遠征(東海大会や全国大会への出場)
 - (3) その他校長が必要と認める事業
- 第4条 「英気の泉」にかかわる事業を行う場合、主たる事業実施者(申請者)は、同窓会長に「英気の泉助成金申請書」を提出するものとする。
- 附 則 この規定は平成18年4月1日から施行する。

平成25年度 「英気の泉」決算報告

収入の部 (単位:円)		支出の部 (単位:円)	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	2,283,672	野球部応援バス代	63,905
個人納入(6件)	109,895	ASCバス代金	254,603
PTAバザーより寄付	124,814	ASCキャンプ場使用料	11,305
総会でのオークション	35,895	中村グッズ製作費	43,542
利息	341	柔道着クリーニング代	57,115
計	2,554,617	楽器修理費	7,035
		楽器運搬費、駐車料金	9,856
		ダンスフェスティバルお祝	44,962
		計	492,323

残高の部 (単位:円)		
収入額計	支出額計	次年度繰越金
2,554,617	492,323	2,062,294

平成25年度寄付者一覧 (敬称略、数字は回生)

岡田順一 (元校長)、伊藤義人 (16回生)、
 可知信悟 (18回生)、萩原義昭 (10回生)、
 高木靖之 (26回生)、加藤伸夫 (26回生)

平成25年度 中村会賛助会費決算報告

収入の部 (単位:円)		支出の部 (単位:円)		
科目	金額	科目	金額	備考
前年度繰越金	2,070,830	会報費	35,700	会報発送用封筒
永年会費	50,000	諸雑費	44,000	関東支部派遣旅費
賛助会費	191,000	計	79,700	
計	2,311,830			

残高の部 (単位:円)		
収入額計	支出額計	次年度繰越金
2,311,830	79,700	2,232,120



中村会総会および 60周年式典のご案内

平成27年8月16日(日) 11:00~15:00
 ルブラ王山
 (地下鉄東山線「池下」駅下車、東へ徒歩2分)
 名古屋市千種区覚王山通8-18
 電話 052-762-3151
 会費 一般 6,000円
 学生 3,000円
 新卒 1,000円

参加者は同封の払込用紙に必要事項を記入して、7月31日(金)までに懇親会費を払い込んでください。
 また、当日は萩原義昭氏(10回生)による記念講演、立川三四楼氏(39回生 加古亮氏)による落語を企画しています。

あなたとつくる中村会

去 助会費とは、同窓会の活動を支える大事な収入源で
費 す。毎年2000円を出していただく(終身会員制度も
 あります)ことで会の存続が保たれています。

「賛助会費」納入者ご芳名

(平成26年11月現在)

回生	組	氏名	旧姓	回生	組	氏名	旧姓
1	2	柘植 佳孝		19	6	近藤 清	
1	2	大島孝一郎		19	7	藤原 義修	
2	1	高橋 光子	水野	19	7	鬼頭 孝治	宮本
2	3	古橋貴美子		19	7	夫馬 伸一	
2	3	山崎 貞夫		19	8	青木 裕幹	
3	2	諸戸 宇代	野田	19	9	小出 厚司	
3	3	長崎 信男		19	9	清水 健次	
3	3	藤田 忍	伊藤	19	10	加藤恵美子	稲垣
4	4	井湯 紀子		20	1	鈴木 浩二	福井
4	4	山田 多恵	中島	20	1	大野 真弓	
4	5	内山 衛		20	2	青木八千代	
4	5	古橋 佳夫		20	2	山下 信子	小泉
5	5	杉本 光祥		20	3	河合 裕子	谷口
6	5	本田美保子	松原	20	4	細井 薫	
7	2	笠谷 新吾		20	4	渡辺久美子	小松
7	7	市原 貞己		20	4	墨 まゆみ	岡地
7	7	角田 輝好		20	5	竹内 久代	
7	7	水谷 武		20	8	真野 耕史	
7	7	南谷 整子	山口	20	10	高田 豊子	
8	4	鉄屋 春代	鉄屋	21	6	服部 雅夫	
8	5	山本 恵子	中川	22	1	太田 守彦	
8	7	河原由紀子		22	3	高木 徹	
9	3	岩附 君代	加藤	22	5	脇岡 敬子	
9	3	鈴木 敏秋		22	9	太田 久子	鈴木
9	4	岡 幸子	高橋	22	9	七原 泰世	太田
9	6	吉田 稔		22	9	野田 尚美	前川
10	3	前田 明徳		23	4	宮崎加奈子	米本
10	3	阿部 達彦		23	5	木村 和文	
10	4	萩原 義昭		24	4	角田 大輔	
10	4	遠山 周二		24	4	三島 浩路	
10	4	金子 悟	山本	25	1	家田 正寿	
10	5	杉山 博司		25	4	立松 愛唯	古田
10	5	近藤不二夫		25	7	杉嶋 重男	
10	6	神谷 佳弘		26	4	加藤 伸夫	
11	2	太田 和代		26	5	岩田 賢治	
11	3	近藤 始		26	7	加藤 真澄	中山
11	3	渡辺 俊朗		26	10	加藤 恵子	
11	8	桑山 信之		27	5	山田 大	
12	6	服部 繁雄		29	3	田口 健次	
12	8	江龍 貞雄		29	4	尾関 達哉	
12	8	太田 裕盛		29	9	永井 秀和	
12	10	中島 博明		29	9	丹後 茂	
14	2	内藤 洋子	平野	29	10	神戸 昭雄	
14	4	前川 耕子	堀田	30	4	奥村 守男	
15	4	落合 夕子		31	1	古橋 信一	
15	6	宮崎 晃吉		31	3	竹内 俊幸	
15	6	吉川 欣一		34	3	川口 恭子	
15	7	伊藤 友泰		34	3	内田 雅章	
15	8	橋本 英信		34	5	新留 一成	
15	8	新留 大学		35	5	山田 幸雄	
15	9	佐藤 元嗣		37	5	山本英津子	
15	10	森田 茂		38	1	榎岡 洋伸	
16	4	笹野 明美	寺西	38	9	江崎 巖	
16	4	大滝 政則		39	5	森田 紀子	
16	5	小菅もと子	服部	40	10	藤井 博	
16	8	伊藤 義人		41	2	野水 弘司	
16	8	鈴木 忠		44	1	伊藤 亮治	
17	1	中西さつき	高木	44	1	吉田 真良	
17	2	仙波 孝子	木村	45	3	後藤 友輔	
17	2	近藤 厚子	近藤	48	4	浅井 勇貴	
17	2	津田 直樹		49	1	下田 章雄	
17	5	岩上 秀子	寺西	49	9	井平 貴子	
17	6	松岡 智子	織田	50	6	大嶽 忠功	
17	7	佐野三恵子		50	7	中川 翔	
17	8	川合 富雄		50	7	下田 健二	
17	9	野村 昌敏		53	4	杉森 舞	
17	9	辻本 弘美		53	8	細川 貴弘	
17	10	奥村 隆一		54	2	小林 和典	
18	5	堀田 久富		54	7	大矢真理子	
18	5	村瀬 茂三	田中	55	4	毛利 洗橋	
18	6	小林 早苗		56	4	大見 雄基	
18	7	水野 尚子		58	2	加藤 真治	
18	7	後藤 雅敏		58	2	福永 光晶	
18	7	松原 正朗		58	3	田口 加織	
18	8	神戸 喜幸		58	4	岡田 順一	
18	8	荒井 清明					
19	3	増田 義則					

平成26年度事業報告

平成26・27年度中村会役員

(詳しくはHPをご覧ください)

会長	宮崎 晃吉 (15回生)
副会長	川合 富雄 (17回生・広報担当)
	太田 守彦 (22回生・総務担当)
	山下 路代 (34回生・財務担当)
事務局長	伊藤 太亮 (45回生)
書記	川合 富雄 (17回生)
	伊藤 太亮 (45回生)
会計	江口 基 (42回生)
	丹後 茂 (29回生)
監査	山田 幸雄 (37回生)
	祖父江 隆 (45回生)

平成26年度中村会事業計画

- 1 総会の開催
- 2 会報の発行 (第12号)
- 3 HPの運営とその効率化の実施
- 4 役員会の開催
- 5 『英気の泉』基金の募集・運用
- 6 教養講座「中村未来塾」への協力
- 7 PTAとの連携事業の推進
- 8 縦のつながりの増強活動
- 9 常任幹事の増強
- 10 関東支部の支部総会の実施
- 11 中村会60周年記念事業に向けての検討

平成26年度 中村会予算案

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	備考
前年度繰越金	2,162,739	
入会金	1,380,000	@4,000×315名
雑収入	261	
計	3,543,000	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額	備考	
事業費	100,000	総会経費、奨学金	
広報費	HP運営費	330,000	HPメンテナンス料金等
	通信費	400,000	会報発送等
	会報費	250,000	会報作成
総務管理費	総会施設費	40,000	総会会場使用料
	名簿管理費	260,000	新規入力、変更、削除
雑費	諸雑費	10,000	振込手数料
	慶弔費	20,000	上級大会出場祝金
	会議費	5,000	役員会
予備費	100,000		
繰越金	2,028,000		
計	3,543,000		

平成25年度 中村会決算報告

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	執行額	差額	備考
前年度繰越金	2,074,853	2,074,853	0	
入会金	1,240,000	1,256,000	16,000	卒業生314名
雑収入	147	50,573	50,426	懇親会残金
計	3,325,000	3,381,426	66,426	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額	執行額	差額	備考	
事業費	100,000	30,000	70,000		
広報費	HP運営費	320,000	318,144	1,856	毎月26,512円
	通信費	400,000	372,581	27,419	
	会報費	230,000	229,320	680	封筒は賛助会費で作成
総務管理費	総会施設費	40,000	32,556	7,444	
	名簿管理費	300,000	221,510	78,490	
雑費	諸雑費	10,000	9,576	424	振込手数料、文房具
	慶弔費	20,000	5,000	15,000	体操部東海大会出場祝金
	会議費	5,000	0	5,000	
予備費	100,000	0	100,000		
繰越金	1,790,000	0	1,790,000		
計	3,315,000	1,218,687	2,096,313		

残高の部 (単位:円)

収入額計	支出額計	次年度繰越金
3,381,426	1,218,687	2,162,739

上記に相違ありません

平成26年4月12日 監査 山田 幸雄
監査 祖父江 隆

校章



中村高等学校の「中」の字を、雪の結晶とミツバチの巣の形に図案化し、その中央に「高」の字を配している。

「蛍雪の功空しからず」の故事にちなんだ雪は「清浄」を、ミツバチの巣は「努力と団結」をあらわす。

17回生「還暦祝い」の同期会

「やっとかめだなも」
去る3月30日に名古屋駅前「キャッスルプラザ」において、17回生の同期会を4年ぶりに開催しました。

17回生は4年ごとのワールドカップの年に「同期会」を開こうと13年前から始め、今回が4回目となります。参加者は毎回90人ぐらいと同期会としては多くの方が参加してくれます。今回一番遠くから参加した人は四国は、高知県からはるばるやって来てくれました。懐かしい顔に会うと一気に時間がタイムスリップします。お互いに当時を思い出しながら現在を語るところが同期会のいいところでしょうか。

今回は還暦祝いの同期会ともなったので、赤いものを身につけてみようということが提案され、それぞれ思い思いの衣装や小物で「還暦」をアピールしました。「ベストドレッサー賞」の投票も行いました。こうしたイベントがさらに座を盛り上げてくれました。恩師は、2人の参加でした。

もう一つ17回生の同期会の特長ともなった、「フジパンのお土産」が今回もありました。フジパンの役員になった同期生がいるので毎回おねだりをしています。快く引き受けてくれ、参加者一同大きな袋いっぱいのお土産に感謝しました。

前回の時に計報を発表したときは高校卒業後の14人の発表でしたが、今回はわずか4年の間になくなった14人の発表でした。男性の方が多かったのが印象的でした。

次回は2018年のワールドカップの年に開催です。その日まで元気にお互い過ごしたいものです。
(17回生 川合)



卒業生進路

主要大学合格者数（過去3年間、現浪込み）

	主な国公立大学	人数	
東海 北陸	名古屋工業大学	2	
	愛知教育大学	4	
	豊橋技術科学大学	1	
	名古屋市立大学	2	
	愛知県立大学	4	
	愛知県立芸術大学	1	
	岐阜大学	2	
	三重大学	6	
	富山大学	1	
	福井大学	1	
	富山県立大学	1	
	福井県立大学	1	
	関東 甲信越 以北	秋田大学	1
		会津大学	1
山形大学		1	
埼玉大学		1	
都留文科大学		3	
関西 中四国 九州	信州大学	1	
	滋賀大学	1	
	滋賀医科大学	1	
	愛媛大学	2	
	高知大学	1	
	福岡教育大学	1	
鹿児島大学	1		
国公立大学合計		41	
大学校	防衛大学校	2	
	水産大学校	1	
	職業能力開発総合大学校	1	
	大学校合計	4	

	主な私立大学	人数
東海 北陸	南山大学	42
	愛知大学	94
	名城大学	119
	中京大学	128
	愛知淑徳大学	107
	金城学院大学	32
	椋山女学園大学	48
	愛知学院大学	132
	愛知医科大学	4
	藤田保健衛生大学	3
	日本赤十字豊田看護大学	4
	名古屋外国語大学	32
	愛知工業大学	36
	桜花学園大学	6
	中部大学	107
	東海学園大学	40
	大同大学	39
	名古屋学芸大学	17
	名古屋学院大学	159
	名古屋芸術大学	12
	名古屋商科大学	19
	名古屋女子大学	9
	日本福祉大学	41
岐阜聖徳学園大学	5	
皇學館大学	4	
鈴鹿医療技術大学	23	
四日市看護医療大学	4	
聖霊クリスティアン大学	3	
金沢工業大学	1	

	主な私立大学	人数
関東	慶應義塾大学	3
	上智大学	1
	東京理科大学	4
	明治大学	4
	立教大学	3
	法政大学	8
	青山学院大学	2
	中央大学	3
	日本大学	3
	東洋大学	1
	駒澤大学	5
	専修大学	3
	國學院大学	2
	成城大学	1
	成蹊大学	1
	帝京大学	4
	北里大学	1
	芝浦工業大学	1
	フェリス学院大学	1
	東海大学	9
関西 中四国 九州	同志社大学	6
	立命館大学	16
	京都産業大学	10
	龍谷大学	8
	関西大学	4
	関西学院大学	2
私立大学合計		1521

部活動紹介

■硬式テニス部

私たち硬式テニス部は「県大会出場」を目標に毎日一生懸命練習に取り組んでいます。平日は授業後から日が落ちるまで、休日は午前中に女子、午後に男子という形で分かれて活動しています。部員数は男子28人で、女子10人です。同学年はもちろん先輩、後輩ともどの部活動にも負けないくらい仲良しです。練習メニューはストロークやボレー、サービスの基本練習からゲーム形式の応用練習まで工夫して行っています。もちろん筋トレやランニングなど基礎体力をつける練習もしています。

顧問の加藤伸夫先生と伊藤太亮先生はともに、中村高校出身の先生であり、優しく熱心に指導して下さります。先生達に教えてもらったショットがよいコースに打ったとき、テニスの楽しさを感じることができます。

「県大会出場」はまだ遠い目標ですが、今後も全員で一生懸命頑張って練習していきます。私はテニス部が大好きです。この部活動で出会った仲間は私の一生の宝物です。

(部長 浅野ひかる)



職員の人事異動

26年度春の異動は次の通りです。(敬称略)

【御退職】

中村立実校長

江川 毅(数学)

津田 直樹(保健体育) 中村高校で再任用

谷口 吉明(英語)

山本 和男(地歴) 千種高校で再任用

横山 治夫(数学)

二俣 弘康(数学) 中村高校で再任用

水野 博隆(理科) 中村高校で再任用

中澄真也子(養護) 安城高校で新規採用

【御転出】

長谷川雄三(国語) 幸田高校へ

水谷 光一(地歴) 明和高校へ

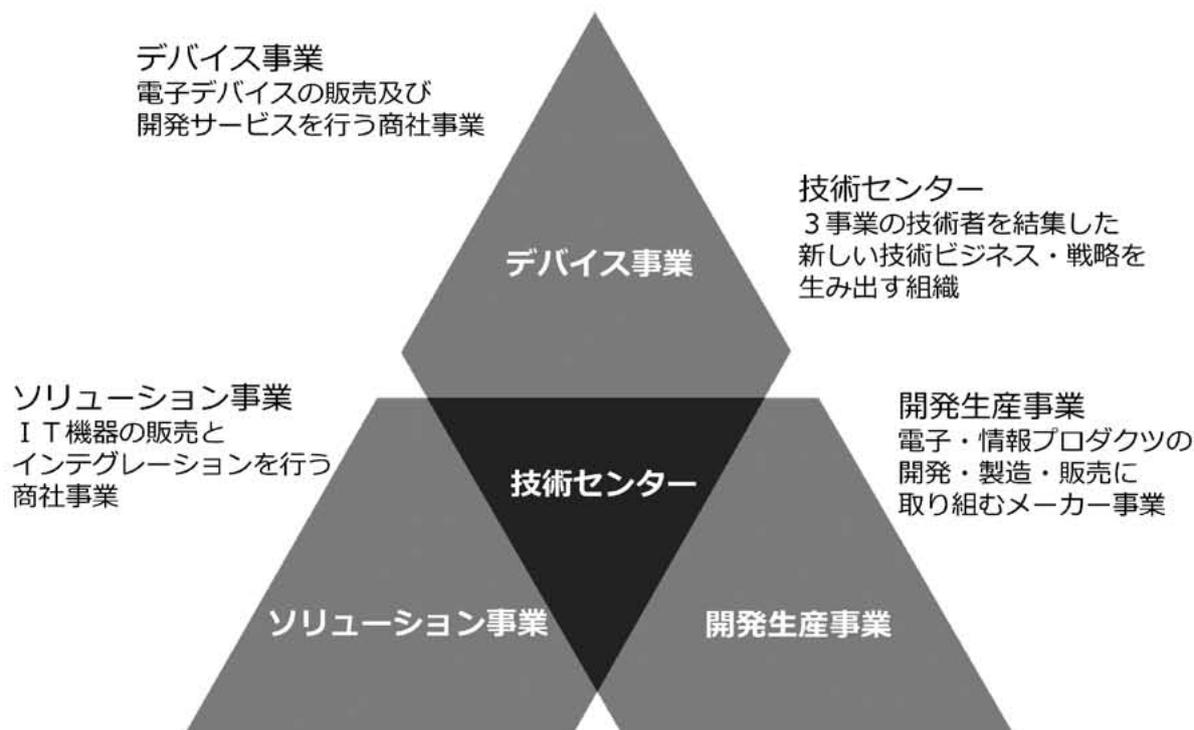
日下部 靖(数学) 南陽高校へ

佐々木和也(事務) 小牧工業高校へ





先進エレクトロニクスの ワンストップ・ソリューションサプライヤー



会社概要

商号	萩原電気株式会社 HAGIWARA ELECTRIC CO.,LTD.
所在地	名古屋市東区東桜二丁目3番3号
代表取締役	岩井三津雄
創業年月日	1948年3月31日
資本金	33億121万6千100円



本社別荘

萩原電気株式会社

(東京証券取引所・名古屋証券取引所 市場第一部 証券コード7467)

<http://www.hagiwara.co.jp/>

取締役会長 萩原義昭 (10回生)

ご相談は
お気軽に

法人・個人の決算
相続・贈与税の相談と申告
建設業の許可申請

宮崎晃吉税理士事務所

名古屋税理士会 監事

税理士 宮崎^{てる}晃^{よし}吉 (15回生) 第10代会長
行政書士

事務所

〒451-0025 名古屋市西区上名古屋三丁目7-15
TEL (052)522-8267 FAX 522-8268
携帯 090-3850-6610

自宅

〒464-0094 名古屋市千種区赤坂町3-38-2
TEL・FAX (052)722-6600

私たちは中村高校を応援しています 〈企業 PR〉

平野紙工株式会社

代表取締役

平成26年度PTA会長

平野展由

〒453-0038 名古屋市中村区猪之越町2-3-6

TEL : 052-461-3145

FAX : 052-482-8996

MOB : 090-1472-2468

祝 60周年

不動産・商業登記 相続・遺言 会社設立 裁判事務 成年後見

山下路代司法書士事務所

簡裁代理権認定
司法書士

山下路代

携帯 / 090-5078-6927

〒460-0008 名古屋市中区栄1丁目22番16号
ミナミ栄ビル617号室

TEL: 052-218-6386 FAX: 052-218-6387

E-mail : info@michiyo-office.com

URL : <http://www.michiyo-office.com>

私たちは中村高校を応援しています 〈企業 PR〉

祝 中村高校同窓会60周年 第19期卒業生一同

収益不動産購入、売却のアドバイス
不動産の有効利用
債権処理に伴う不動産売却のお手伝い
一般住宅、マンションの購入、売却のお手伝い
その他不動産にかかわるすべての相談

東翔エステート

株式
会社

代表取締役 高木靖之 (26回生)

祝・中村会60周年
17回生一同

祝！中村会創立60周年

代表取締役

堀田 守人

(昭和48年卒18回生)

千種土建株式会社

〒465-0093 名古屋市名東区一社三丁目135番地の1

TEL (052) 709-5341 / FAX (052) 709-5343

E-mail hotta-cc@chikusa.co.jp

<http://www.chikusa.co.jp>

祝 中村高校同窓会60周年

高村 義男 (2回生)

伊藤 義人 (16回生)

服部 保弘 (19回生)

太田 守彦 (22回生)

加藤 伸夫 (26回生)

平成26年部活動結果

体操競技部

第68回愛知県高等学校総合体育大会 体操競技名南支部予選会
男子団体総合 4位 305廣川、203中村、202浅井、101石本
女子2部団体総合 優勝 306森、202浅井、107大原
女子2部個人総合 優勝 306森菜々子、2位 107大原奈々、
3位 202浅井かな子

第68回愛知県高等学校総合体育大会
女子2部個人総合 第4位 306森菜々子
女子2部団体総合 第3位 306森、202浅井、208大谷、
107大原

平成26年度愛知県高等学校新人体育大会名南支部予選会
男子団体総合4位 203中村、202浅井、101石本、101山本
女子団体総合優勝 202浅井、107大原、106大倉、101各務
女子個人総合3位 107大原奈々、5位 106大倉真千子

水泳部

第68回愛知県高等学校総合体育大会名南支部予選会
女子総合 第8位
女子400mメドレーリレー第5位 209藤井、303林、102大釜、
209蒲生

女子100m平泳ぎ 第4位 303林 優佳
男子200m個人メドレーリレー第5位 101大槻元太郎

第35回名古屋市愛知県高等学校体育大会
女子総合6位
男子の部400m自由形 第2位 301藤木 聖
女子の部200m平泳ぎ 第3位 303林 優佳

第51回名古屋地区高等学校水泳競技大会
女子100m背泳ぎ 209藤井奈津実

平成26年度愛知県高等学校新人体育大会 名南支部予選会
女子総合第7位

平成26年度愛知県高等学校新人体育大会名北南支部予選会
女子100m背泳ぎ 第6位 209藤井奈津実
女子200m平泳ぎ 第5位 103太田優花
女子50m自由形 第7位 102大釜有稀

JRC

感謝状

愛知県青少年赤十字指導者協議会会長
(使用済み切手・テレホンカード収集運動)
愛知県青少年赤十字指導者協議会会長(街頭献血の広報活動)
株式会社あるてあ

ソフトテニス部

第68回愛知県高等学校総合体育大会 名南支部予選会
女子団体6位

第56回名古屋市民スポーツ祭 高校男子の部
団体 第3位 206藤橋、106浦越、204菊田、207平田、
104甲斐、109中川

第35回名古屋市愛知県高等学校体育大会 ソフトテニス大会
男子の部
団体戦 第3位 Aチーム 206藤橋、106浦越、204菊田、
207平田、104甲斐、109中川

平成26年度愛知県高等学校新人体育大会名南支部予選会
男子団体 第4位 206藤橋、106浦越、204菊田、207平田、
104甲斐、109中川

ダンス部

全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)
入選 作品『 』-17歳-

第6回名古屋文化短期大学全国ハイスクールコンペティション
ソレイユ賞

演劇部

第67回中部日本高等学校演劇名古屋第四地区大会
優秀賞 → 県大会

第67回中部日本高等学校演劇愛知県大会
優秀賞 → 中部大会

吹奏楽部

平成26年度愛知県吹奏楽コンクール名古屋地区大会
A編成の部 銅賞

弓道部

名南支部高校弓道選手権大会 女子個人2位 209滝川綾乃
県高校弓道選抜大会 県大会出場 201山岸和樹、209滝川綾乃

陸上部

第42回名古屋地区陸上競技選手権大会
男子3000mSC 第7位 202水野裕司

平成26年度愛知県高等学校新人体育大会名南支部予選会
男子3000mSC 第3位 202水野裕司

書道部

平成26年度第13回岐阜女子大学全国書道展
書道展賞 102江藤美保、奨励賞 308野原大輔

◆編集後記◆

今回の広報誌は同窓会60周年を8月に迎えることを記念した号となっています。一口に60年と言ってもその間には、多くの先輩たちの努力があったことだと痛感しています。今後もこれからを担う中村高生を支える同窓会であり続けたいと思っています。(T.K)

インターネットのここを検索して!

中村高校同窓会

検索

お願い

同窓生で住所変更をされた方は「中村会」事務局までご連絡ください

「中村会」事務局 〒453-0068 名古屋市中村区菊水町1-2-18 (中村高校内) TEL.052-411-7760 FAX.052-413-5357